
真剣で女王に恋しなさい！

ウルフガイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣で女王に恋しなさい！

【Nコード】

N6740T

【作者名】

ウルフガイ

【あらすじ】

竜造寺静華は生まれながらにして女王だった。世界有数の財閥の跡取り娘でもある彼女は、いまだ未熟な自分を鍛えるためにも、自らの定める競争相手である九鬼財閥の御曹司がいるこの川神学園へと転入する。女王はいかなる成長を遂げるのか。予告編（仮）。

（前書き）

短編なんだから期待はしないでよね！

まじこい短編その一　　～女王降臨～

夏休みが終わり、いよいよ新学期という時に。
その女は颯爽とやってきた。

――へりで！

そろそろ朝のHRが始まろうかという時間帯。

そんな中、バラバラバラ……というへりのモーター音がどこからともなく聞こえてきた。

それは段々と大きくなり、いよいよ無視できなくなるほど大きくなった頃。

グラウンドに面する教室の窓からは、そこに浮かぶへりの姿がはっきりと見えていた。

「うるさいわね、一体……ってへり！？」

「……馬じゃなくてへりか。もう驚かんぞ」

「みなさん、落ち着いてくださいーい！」

グラウンドに面するクラスでは、その騒音やへりの存在を示唆する言葉が飛び出した。

四月に、馬に乗って登校してきた転入生を迎えた2・Fとて例外ではない。

そんな中、唐突にヘリコプターの扉が開いた。

もちろんヘリコプターはまだ地面に着陸していない。グラウンドの中央、ちょうど学校の屋上よりもやや高い高度を飛行している。

「……どうしよう。なんか予想がついちゃったんだけど」

「俺様もだ。でも、さすがに無いよな」

「姉さんならあそこから飛び降りるだろうけど、さすがに普通の人
がやったら危な……」

「待てよ大和、あんなヘリに乗って現れるような奴に普通なんて失
礼だぞ」

2・Fの教室から窓の外を覗く、風間ファミリーの男四人はそんな
会話をした。

しかしはからずも、彼らの予想は見事的中する。

「皆が妾に注目しておるわ。とうっ！」

ヘリコプターの中から姿を現したのは、豪華な金髪を持つ背の高い
女だった。

非常に整った顔立ちの中で、燃えるような黒い大きな目が美しさを
際立てている。その毅然とした表情には、自己への自信が他者へと
伝わるほどに現れていた。

そんな金髪の女が、そのモデル顔負けの肢体に川神学園の制服を纏
ってヘリの開いた扉の前にいた。若干の改造が為されたその制服に
は、元々のデザインを崩さない程度に装飾が施されている。

己に向けられる視線を察知した彼女は、そうとわかった上でヘリの
扉から外へとダイブした。

結構な高所から飛び降りた事に驚愕する声や危険だと言う声を、彼女の優れた聴覚はしっかりと捉えていた。

「はは——」

それを聞いて彼女は笑みを零す。

要らぬ心配をする者達の声があまりにもおかしくて笑ってしまう。ヘリから飛び降りた美女が空中で笑う。

もうすぐそこにまで地面は迫っているというのに、その佇まいはヘリから飛び降りた時となんら変わっていない。

誰もが一体どうなるのかと思う中、彼女は地面へと降り立った。

やはりその姿は、全く変わらずそのままであった。

降り立った事でグラウンドに砂が舞うでもなく、膝を曲げて衝撃を吸収しようとするでもなく、彼女は全くの自然体のままでグラウンドの中央に立っていた。

「さて……ご苦労だった。帰ってくれ」

『ラジャー』

グラウンドに降り立った美女からの命令を受け、ヘリが彼方へと飛び去っていく。

もはやヘリは注目的ではなく、グラウンドの中央に立つ彼女へとそれは集中している。

彼女はその視線を受け止めるかのように校舎をジロリと見回して、口を開いた。

「さて……む？」

しかし、彼女が口を開こうとした時だった。

唐突に背後から何かが迫る気配を感じ、正門の方に体を向ける。
そのまま彼女が門を見つめたままでしばらくが経ち、その場へ姿を現したのは……

「ふはははははは！ 何やらへりがこの学園から飛び立つのを見たが、乗っていたのは貴様だな。名を名乗れ！」

人力車に乗った九鬼英雄がそこにいた。

彼は己が道の前に立つ、いかにもな美女に名を名乗れと言い放った。英雄が来た時からすでに正門の方向を、すなわち英雄の方向を向いていた彼女はしっかりと目を合わせて逆に問い返した。

「ふむ。お前、九鬼揚羽の弟であるな？」

「ぬ？ 姉上の知り合いか？」

「そうだとも。ちなみにお前とも会ったことがあるぞ。遙か昔のことではあるがな。まったく、この顔を忘れたとは言わせんぞ。なにせ共に苦境を生き延びた者同士であろう？」

「生き延びた……？ 貴様、龍造寺か！」

「その通り！ 龍造寺財閥の跡取り、龍造寺静華とは妾の事よ！」

竜造寺財閥、それは『時代は宇宙！』を掲げて各国の宇宙開発機関と繋がりを持ち、急速に大きくなった財閥である。

九鬼財閥の御曹司として、九鬼英雄がそんな財閥の事を知らないはずもなく……他の因縁もあるようだが、知り合いであることは確かだったようだ。

「その制服を見たところ、転入生というのは――」

「ああ、私の事だ。2年のSクラスに入ることになっている」

「……まあ当然だろうな」

九鬼英雄にしてみれば、竜造寺静華がSクラスに入る事は当然のよう
うに考えられた。

日本にある一企業に過ぎなかった竜造寺の会社を、国際的にも通じる
世界でも有数の財閥にまで大きくしたのは竜造寺財閥の現トップ
である竜造寺隼人。その娘であり、女でありながら既に財閥におい
ても大きな仕事を任される竜造寺静華が優秀なのはとうに知ってい
る事。それがSクラスに入るのは当然だろうということだ。

「共に競い合おうぞ、九鬼英雄？」

「ふん、望むところよ」

（キャッチコピー）

我が龍造寺財閥は主に宇宙開発を主にし、世界各国の宇宙開発機関
に投資してそれを成功に納めてきた。

まだまだ九鬼に並ぶべくもないちっぽけな財閥であることは自覚し
ているが、そのうち喉元に喰らいついてくれる。覚悟しておけ九鬼
英雄、そして更に精進してくれ。

龍造寺静華がいずれ競うべき敵は、真の英雄・英傑であらねばなら
ん。

そして私はそれを打ち砕く！ 真正面から確実に！
ふははははははは！

なんとなく予告編

「ふむ、妾の力を示すには良い機会だ。その決闘、受けさせてもらおう」

「てめえ英雄様に馴れ馴れしすぎるんだよ。吠え面かかせてやる」

「ふふ、やってみるがいい。真正面から迎え撃ち、打ち砕いてやる」

売られた喧嘩は買う。決闘であるなら受けて立つ。

そして全てに勝利する。常に余裕を持ち、王者としての戦い方で。

「舐めてんのかてめえ！」

「舐めてなどおらん。これが妾のスタイルよ」

振るわれる小太刀は蹴りで撃ち落とし、腕を組んだままであしらっていく。

あずみの顔には苛立ちが浮かび、静華の顔には余裕の笑みが浮かんでいる事が両者の間にある差を明確に表している。

テコンドーとボクシングを中心に自身の役に立つであろう武術や知識をその身で覚え、『浅く広く』ではなく『深く広く』自分のモノにしようとした結果、龍造寺静華は元々の才能も合わさって強くなった。

そんじょそこらの人間には負けないように。幼い頃のようにテロに巻き込まれ、無様に死にかけるとような事がないように。

「これが……川上百代か！」

「お前面白いな。揚羽さんに聞いた通りだ」

適うはずもない敵に勝負を挑まれ、戦うも敗れ去る。

それは当然の運命。決闘から逃げる事はできず、かといって全力を出して勝てる相手でもなし。

ならば最後は華々しく散るのみ。

「退かぬ！ 媚びぬ！ 省みぬ！ 敵わぬのなら最後は全身全霊でもって玉碎あるのみ！」

「こい！ 全て受け止めてやるから見せてみる！」

敗北後、女王は何を学んで何を思うのか。
そしてまさかの相手と仲良くなって——！

真剣で女王に恋しなさい！

｝201X年X月X日 執筆開始
｝

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6740t/>

真剣で女王に恋しなさい！

2011年10月9日21時12分発行